

調布病院和痛分娩

1) 基本方針

目的：母児双方の安全を確保しつつ陣痛の痛みを産婦が耐えうる程度に軽減する

対象：和痛分娩を希望する妊産婦

方法：硬膜外麻酔・陰部神経ブロック

2) 説明と同意

担当医が和痛分娩説明書にそって説明し、和痛分娩に対する理解と期待が患者・医師間で齟齬なく共有されるよう努める

3) 人員

和痛分娩麻酔管理者 院長（産婦人科専門医・麻酔科標榜医）

麻酔担当医 病棟担当医（産婦人科専門医）

分娩担当助産師・看護師 新生児蘇生法(NCPR)有資格者

母体救命講習会(J-CIMELS)受講者

4) 安全管理

原則として計画分娩とし、硬膜外チューブの留置・試験注入は平日日勤帯で行う

予定前または入院同日夜間に陣痛発来した場合は麻酔管理者・病棟の状況に応じて対応

和痛分娩マニュアル（医師用）・和痛分娩看護マニュアル（看護スタッフ用）を作成・適宜更新し、スタッフ間で周知徹底を図る

施設内で危機対応シュミレーションを実施する

5) インシデント・アクシデント対応

速やかに院内医療安全管理委員会に報告。重大インシデント・アクシデントについては日本産婦人科医会・東京都産婦人科医会・JALA 無痛分娩有害事象収集分析事業に報告する